明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第貳卷
第六號

明治三十七年六月二日發行

妻の犯罪（木下尚江）……一
牛乳の話……五
牛乳の水分‖病人と牛乳‖日本人の迷信‖米國の牛乳
蛋白質の試驗‖營養不足と社會問題‖牛乳の消化作用
牛乳より食品の製造
遺傳に就て……八
花菖蒲（久田二葉）……九
一菖蒲の美觀　二花菖蒲の詩　三花菖蒲と國風　四花菖蒲の
歷史　五花菖蒲と昆蟲　六花菖蒲の種類
婦人と政治（幸德秋水）……一七
二葉園藝……二二
家庭通信……二三
一予の家庭（みうら）　二卒後の上は（ひろし生）
獄中なる枯川兄を想ふ（旭山生）……二五
體育と化粧法（近藤生）……二六
整容法……二八
親の財産……二九
角筈の小有村舍……三〇
編輯便り……三二

由分社

東京市麴町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子高等師範學校教師文學士尾上柴舟先生序
華族女學校監下田歌子女史題歌
鈴木秋子女史著

(新刊)

軍國の婦人

定價廿八錢
郵稅四錢

戰爭の裏面に婦人あり戰爭は男子のみにてなすものと云ふは未だ以て今日の時局を語るべからず本書は實に婦人が戰時に於てなすべき活動の方法及び戰爭と婦人との天賦を說きたるものにして時勢に適切なる事は勿論苟も婦人にして自己の修養發達を力むるものは必ず一讀せざるべからざるの書也．

發行所 東京本郷區元富士町 日高有隣堂

本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料　特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は毎月一回(一日)發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵券代用の節は五厘切手にて一割增の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人はすべて無指定の事。

明治三十七年五月廿九日印刷
明治三十七年六月一日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎
印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助
發行所　東京麴町區中六番町十番地　由分社
大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌

第二巻
第六號

妻の犯罪

木下尚江

今日の婦人問題――適切に云へば人生の戀愛問題を以て、世間の老人輩の見解に從ひ、十九や二十の若者の上にかゝる問題とのみ解すべきではない。近頃この問題に關し、余と同意見を有せる四五の講者を得つゝあるのは、慥に忽諸に附すべからざる緊急事件たるを證明して餘りあり。又過日戰地より歸來せる一人の友の曰く、君よ、今や慘憺たる戰場にあるの彼我の勇士が、如何ばかり甘き戀愛の露に飢え、温き其光りを要求せるかを想像し得るや。君の非戰論に對し常に輕侮の意を持したりし余も、流石に實際の光景を目睹せば非戰論者たらざるを得ない。啻に余のみにあらず。戰鬪員の多くは知らず〳〵の内に非戰論者の列に加はると。

友は更に物語つて曰く、堆く積まれた彼我の兵士の死骸を見るに、其殆んど八九分は懷中に婦人の寫眞を收めて居る。特に一同が同情の涙に暮れたのは、まだ裏若い兵士で、彼の懷中には許嫁の婦人と共に撮つた可愛き寫眞と、其婦人からの封書が一通――まだ開封もせずに這入つて居た事である。中には英文で「愛の詩」などの書いた紙片を持つて居るもあり、或は全く日本的に緋縮緬の襦袢の袖などを肌身に着けて居るのも見受けた。又、一人重傷を負ふた敵の捕虜があつたある將校が來て彼を慰めた時、彼は目を開いて『貴下は中隊長殿か』と尋ねる。日本の將校は『否』と答へたが、彼はそれを眞とはせぬ。終に將校も哀情を催し、汝の言の如しとの意を通ずると、彼は非常に喜んだ。さうして、將校が最後に只一回厚き握手を置土産にして其場を去ると、間もなく兵士は盛んに囈言を云ひ始めたが、其囈言は悉く婦人の事に關して居る。處へ丁度又日本の通譯官が來た。即ち優しい言葉を掛けて慰

問すると、彼は眞面目に譯官を瞶め『此處は？』と云ふ疑問を發す。『此處は野戰病院なり。汝は日本軍の捕虜となれり。』との譯官の答へに、彼は訝しげに首を傾けて曰く。『余は先刻中隊長に逢ひ、婦人と談話を交へしに、早く已に捕虜となれるにや。』と、如何にも痛恨の面色にて、終に呼吸を引とりぬと。

以上の物語一として可憐なる戀愛の面影を止めぬものはない。戀愛問題の研究は決してこれを無用視する事が出來ぬ。余は今こゝに『妻の犯罪』と云ふ題を掲げたが、これは戀愛問題を表玄關から解釋せず、態と裏口へ廻つて論じやうとする所から出たのである。

妻の犯罪――すりや盜みは乙女にも娘にもある故に、妻の犯罪とは云ひ難い。眞に妻の犯罪と云ふならば、世の中に只一つより外にはない。これは人生に於ける最も大なる犯罪で、かの寛大を以て聞えたユダヤの法規でさへ、こればかりは許してない。成程この姦淫罪丈は如何にしても許されぬであらう。日本に於ても有夫姦に向つては一片の同情をも表した書物に接せず。余も亦これに對しては略ぼ同一の見地に立つものである。併し乍ら、余はこの人生の大罪惡に向ひ、從來の世間の習慣に倣つて、只簡單に攻擊し所罰する事が、果して正當の所置であるか否かを疑ふ。單に有夫姦なる表面の一事實のみに拘泥し、其一皮內には如何なる深き秘密の蟠りつゝあるやに、少しの注意をも拂はざるは甚だ輕卒の所爲と云はざるを得ない。露の文豪トルストイの著書を見るに、彼は有夫姦其物に對して。滿腔の同情を表し、『有夫姦は女のみの罪にあらず。』と絕叫してある。

それは兎まれ角まれ、我國古來よりの文學の上に、如何なる有夫姦事件が顯はれたりしや。余は先づこれを伊勢物語の中に見る。それは藤原氏の姬君にして皇妃なりし人と業平朝臣との情事である。さうして日本のある批評家は道德一點張の論法に依つてこれを非難し、又他の批評家はこれに一種の意味を附し、かの犯罪は全く朝臣の勤王的精神の外皮であつた、と辯護して居るが、余は終に何れにも服し難い。それから下つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て。徳川時代――即ち近松翁の作中に於ては、『槍の權三』『堀川波の皷』『お三茂兵衛』などの諸篇皆な有夫姦を材としたものである。此中でも『お三茂兵衛』は最も有名なもの丶一つであるが、どうも此有夫姦は人違ひの結果と云ふ丈で、其間に何等味ふべき痛切の動機がないから、固より満腔の同情を寄せると云ふ事は六ケ敷い。而も特りこ丶に最も嚴肅なる討究に價すべき一事件のあるあり、それは紫式部の『源氏物語』中に描かれてある、かの光る源氏と藤壺との情事である。藤壺は源氏に取つて自分の父君の皇妃にあたるので、畢竟母君との不義が成立つた事になる。其罪や實に重しで、源氏はそれが爲に明石へ流罪になつた程だが、余の見る所を以てすれば、此犯罪には大に同情を表すべき價値あるものと認めるのである。先づは話の順序として、藤壺が如何にして源氏の父君の皇妃となり玉ひしかを說かんに、源氏の母君、即ち父君の先の皇妃桐壺が、非常なる寵愛を受けたるにも拘らず、周圍の嫉妬や何かに始終心を惱まされ、終にはそれが原因となつて病褥の人となり、間もなく愛子を遺して崩御ましました。以來源氏の父君はお命にも代へられぬ程に思召し玉ひし寵妃を失くして、悶々の情堪え難く、日に日にお窶れの氣色の見えて、方に宮庭の一大事とはなつたのである。此に於て、群臣は種々と善後策を講し、それには桐壺の老ひたる母親もありて、到頭例の藤壺が候補者として入御する事に定まつた。藤壺は桐壺と其容貌に於て殆んど爪二つ、只差あるの點は年の極めて若きにあつたが、源氏の父君はこの第二の桐壺を傍に得給ふて、お氣色俄に麗しく、日ならずして御容體は全く以前の如くに御回復ましましたのである。それは結構であつたが、強ひられて第二の桐壺となつた藤壺は、其時決して心の滿足を得ては居なかつた。その心の滿足は何處で破裂したのであらう。それには格好の若き美しき光る源氏、此君との情事が即ちそれである。余はこの自然なる人心の發露に對して、寧ろ大なる同感の念なきを得ない。元來余は二度添ひの婦人に對して、多少の同情を持つて居る。其故は其亭主が常に先妻の

美所をのみ想起す事に忙しく爲に後妻は二倍の損を見るからである。况や此藤壺の身の上たる、自分が戀慕はれて貰はれたのでは更になく、桐壺と云ふ婦人が戀しいばかりに、其身代りとなつた譯で、藤壺其自身の精神は丸で沒却せられた形である。即ち生きた人形と何の選ぶ所がなかつた。無論當時は藤壺も生々しいおぼこ娘であつたから、親の命令、世間の脅迫、少しは主張すべき自分の意見を持つて居ても、只夢我夢中で浮足に辿つて行つたのであらう。併し段々年齢が加はつて、普通の見識が備はり『妾を愛し玉ふは畢竟桐壺が可愛い故に。』と考へて見れば、藤壺の愛情は全體何處で滿足が得られたであらう。此場合、此境遇、光る源氏との情交が成立つと云ふのは、戀愛の失敗者たる藤壺の身にとつて、寧ろ人情の自然と云はねばならぬ。尤も、余とてもこれを以て犯罪にあらずとは斷言せぬが、少くとも、余はかゝる種類の犯罪に向ひ、正面から何の酙酌もなく攻撃するよりは、一層遡つて、其貴き節操を破るべく餘義なくしたる社會の惡風に對して、罪の半ばを負しめる事の更に正當なるを覺ゆるものである。實には日本の史上に於ける一大事件であるが、今日の時代にあつても、矢張同一で、かゝる惡風は社會の上流に向つて、恐ろしく橫溢して居る。抑も人の世にあるの一大要件は、戀愛の眞理を知る事である。日本人は戀愛を知らぬ。國家が世界大となるのも、詰る處は戀愛の發作に外ならぬ。然るに、この美しき人間の愛情をば、階級、金錢、勢力等の如き人爲的制裁の下に幽閉し、弱々しき其芽をさへ踏にぢらうとするのは、如何なる惡魔の心であらう。

かの街上を快驅する馬車中の姫君を見よ。彼女の身邊は悉く綾羅錦繡なり。ダイヤモンドの光眩ゆく、路傍の無智の人をして、轉た羨望に堪へざらしむ。併し乍ら、彼女は生れてより墓場の際と消ゆる迄、終に人の生命なる戀愛の妙味を知らぬ貧者である。『此家が侯爵だから、婿も矢張侯爵でなければならぬ。』と、あゝ陋劣極まれる彼等の心事よ。

木下氏頃日頻りに戀愛問題を論じ、家庭存立の基礎たる自由戀愛の妙趣を傳へんとす。今幸に氏の演説を得て文となす。『火の柱』一篇と併讀し、大に玩味する所あるべきなり。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

牛乳の話

これは此道に堪能なる大石禄亭氏がわざ〳〵書いて贈られたのであります。

○牛乳は身躰の營養に必要なる成分の總てを含み、又自然に調理せられた食品でありまして、之に下手な料理法を施す必要がなく、殆んど理想的の食物とも言はれます、併ながら其百分中に九十內外の水を含んで居まして、強壯な大人を牛乳ばかりで養ふには、一日に二升近くも飮ませねばなりませんが、それでは水の量が餘り多過ぎまして、到底長く續ける事が出來ません。

○尤も腸チブスの樣な急性の熱病には、牛乳が甚　必要であり又慢性の胃腸病、糖尿病などにも西洋では殊更に牛乳療法（ミルクキユーア）を試み、數週間牛乳の外一切の飮食を禁ずる事もありますが、普通の混合食に代ふるに牛乳のみを以てすれば、數日の間甚しく疲勞を覺え、體重も著しく減じます。

○然るに近頃我國には牛乳に對する一種の迷信家が出來まして、昔の人間が熊の膽や人參に對する信仰の樣に、牛乳に向つて餘り多くを要求め、之を五勺のめば五勺だけの利目が見え、一合飮めばそれ丈け身躰が肥るかの樣に思ひ、尙甚しきは、他方に於て多くの不養生を敢てし乍ら、同時に少許の牛乳を用ひ、之を以て此上もない衛生法と心得る人さへもあります。

○健康者が食物の一部として牛乳を飮むには、經濟上代價の高低をも考へねばなりません。米國の某地方の樣に一ガロンの價が僅か十仙や十二仙ならば、殆んど水の代りに種々の料理にも使はれますが、日本の如く安きも一合三錢を下らず、高きは五錢の上に昇ると云ふ國では、他の食品の價と比べて割合に安い方を選ぶの必要があります。

○今食品の成分中、最　必要なもの丶一つなる蛋白質に就て考へて見るに、牛乳は一〇〇、〇中『三、二』魚肉は『五、〇』鷄卵は『一六、〇』を含んで居ます。此比例から概算すると、牛乳の價一合四錢以上にして、鮮魚の價百目十錢以下の海邊や、鷄卵一箇五錢以下の土地ならば、牛乳を飮むよりも魚類か鷄卵を用ふる事によつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、安價なる蛋白質を得られる譯になります。

◎併ながら食物には箇人の嗜好と言ふものもあり、又其必要なる成分は唯蛋白質ばかりでもない故、代價のみが強ち取捨の標準になると言ふ譯でもありません。殊に或種類の病氣には是非とも牛乳が必要であり、これでなければ病人の營養が得られず。随つて醫療の目的が全く失敗すると云ふ場合もあります。然るにそれ程必要な牛乳が得られぬと言ふ事情があり、若しも其事情が貧困の一事でありとせば、如何にも哀れな事ではありませんか。

◎現に私などの近邊では冬分は牛乳の供給が澤山ありますが、夏分には例年病人が殖える爲俄かに不足を生じ、貧困者は容易に之が手に入りません。左れば彼等は牛乳代を拂はぬ故かと言ふに、決してさうではないが、牛乳屋は年中之を買取る常得意の需要を充さねばならぬ故、自然と貧困者の方を斷るのださうです。然るに私の目から此常得意なるものを見るに、多くは牛乳に對する迷信家であつて、牛乳に向つて一種の靈驗を望み、甚しきは終夜鯨飲暴食に耽り、翌朝少許の牛乳を飲む事によつて、其不養生を償ひ得るものと信ずる人もあるらしい。嗚呼一方には之無くして生命をつなぎ得ざる貧患者があるにも係らず、一方に於て殆んど之を徒費すると云ふは、悲慘にして且殘酷なる現象ではありませんか。之は素より社會問題の一つとして解決すべきものでありますが、世人が牛乳に對する迷信を解く事も亦必要であらうと思はれます。

◎話が圖らず横道に渉りましたが、尙牛乳に就て二三の注意すべき事を申しますれば、牛乳は胃の内に入れば胃酸に逢ふて直ちに固まり、其水様分は吸收せられても、其凝固分は他の固形食物と同様に消化せられねばなりません。故に多量の牛乳を一息に飲み干す時は、胃中に於て容易に消化し難き大なる凝塊が出來ます。故に宜しく少量づゝよく味ふて飲み、胃中にて數多の小さい凝塊をつくり、容易に胃液の作用を受ける樣にせねばなりません。又牛乳と同時に酸味強き食物を用ゐても牛乳の消化が餘程六かしくなります。

Digitized by Google	Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◯牛乳が消化するには、健全なる胃の中で、大凡三時間かゝります。依て小供に與へるには少くも三時間、胃に異狀のある病人には四時間以上も隔てゝ飲ませねばなりません。牛乳は搾つた時と同じ溫度のものを用ゆるが最適當であります。或西洋人間には食時の時水に冷したるものを多量に飲む習慣がありますが、それは甚宜しくありません。殊に小供に飲ませるには華氏の百度位に溫めるのがよろしい。

◯肥胖病、肝臓病、或は胃腸病者の多數にはクリーム(乳皮)を去つて與へる必要が生じます。乳皮を去るには、淺くして面積の廣い器に入れ、二十四時間冷處に置き、浮び上つた皮を注意してすくひ取ればよろしい。

◯病氣の爲に多量の牛乳を呑まねばならぬ人が、餘り水分の多きに耐えず、不消化或は下痢を起す場合があります。其時は二重鍋に入れて湯煎にし半分以下に蒸發させて用ゐれは宜しい。

◯消化機に異狀のない病人が特に濃厚なる滋養分を要する場合には、牛乳へ殊更に三分の一以下の乳皮を加へ、又其上にココアチヨコレートを交せて用ふれば効能があります。又牛乳を沸す時に少しく砂糖を加ふれば、鍋の底へ焦げつきません。

◯牛乳が少々時間を經て酸味を帶ぶるに至つても、強ち腐敗したりとて之を棄るには及びません。之に適宜のソーダ(重炭曹達)を配合すれば、ビスケツト又は種々の菓子を作るに燒粉の代りになります。其外にも此酸乳を利用して作る多數の食品がありますが、其内最も簡易なるもの丶一つて、コッテーヂチース又はダッチチース(此名は私の聞覺えばかりで正否の保證は出來ません)と申しまして其製法は、酸乳を適宜の琺瑯鍋又は鉢に入れ、文火にかけて置けば數分間に固まります。茲で一寸注意せねばならぬ事は、決して強い火の上で煮立たせてはならぬ事です。さてそれが十分凝固つた時、其水分をこぼし、布巾に包んで可なり強く絞り、器に戻して食匙の背で擦潰し、少しの鹽で味をつけます、好みに應じ之に芥子をつけ、生萵苣や麵麭に添へて食べれば、味もよく亦滋養にもなります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遺傳に就て

左の一篇は曾て「酒と人體」を本誌上に草せられたる、ドクトル有田九皐氏の稿なり。由來家庭と遺傳とは社會の進歩に伴ひ、愈密接の關係を形成す。先天的惡疾を有する人々はこの點に一層の考慮を要し、多數者の幸福の爲めには、一個人の快樂を犧牲となるの覺悟も必要なり。又社會が光輝ある次代の國民を得んとするあらば、宜しく先づ社會は共に努力して、大品性の建設に着手する必要あるべし。

遺傳と云ふものは事實恐る可き勢力を有し小兒は總て其父母と祖先とにこれを受ける。遺傳の顯象に就ては殆んど何人も知らるゝ處であるが、併し一個人の行狀及特質が、其血族にまで遺傳する縁由方法等に至つては、吾々は如何に夫を說明する事が出來るであらう乎。夫に就ての答は「連續」と云ふ事の規則の中に見出す事が出來るであらう。即ち、小麥は常に小麥を產し、煙草の種子は煙草を生じ、薊は薊を產むのである。

林檎の木の小枝を取りて之を荊棘に接枝せば、遂に夫に林檎の果を結ぶに至る。薔薇の小枝を林檎の木に接枝せば、果して夫(林檎の木)に薔薇花を見る、又柳

楊の小枝を其親樹より切離して之を土中に插置せば、杉にも松にも矢張柳楊が生ずる。何故此の如き現象を生ずるのであらう乎。これには實に混亂す可らざる一つの合理的一致があるからである。自然の法規は實に專制的にあらずして、却て單純なり。其荊棘に接枝せられし、薔薇の小枝は、矢張元の薔薇の一部分であつて、只夫が普通以外の場所に成長する迄の事である。この理由と比しく、小兒は其親樹なる兩親から生せし小枝で、云はゞ兩親の形體耳ならず、直に又其人品の一部分と云ふ事も出來る。總ての人類は斯くして其最初の一夫婦から擴張繁茂したものであつた。

自然の創造力が各樹木の枝葉を構成する事に就ての規則は、其以前の各樹木の成長した狀態に全く一致して居る如り、人類の小枝(小兒)が成長繁茂する有樣に就ても亦同樣の因緣が示されてある。

「蒔きたるものを刈入れる」と云ふ事は、一定不變の眞理である。祖先は蒔き、子孫は夫を收穫する。に遺傳は實に一種自然の簿記帳とも云ふ可き者である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

フランス國花

花菖蒲

久田二葉

これからぼツ〳〵花菖蒲（端午の菖蒲とは違ふ）が咲きかけますからいろ〳〵の方面から觀て此の話を致します。其の少し長いのは、皆さんに食傷して戴かぬやう、眼を反らして戴かぬやうとの苦心の跡で。且つは又、種類が澤山あツて間違ひ易い此の花を、家庭文學として和歌や俳句に正しく詠み込んで戴くやう、活花をされる方にも一見、其の種類を見分けて戴いて、各〻其の特性に從ツて其の美容を活して下さるやう、小供達にも間違ツたことを敎えて戴かぬやうとの老婆心も少しはあるので。

一　花菖蒲の美觀

見晴しよき一大庭園、其翠緑天を突く老松の間に、鏡の如く湛ゆる清泉、それを圍らすは雅味ある曲線や奇岩と菖蒲とである。しかも向ふ岸の綠陰下に茅屋の庵があツて、内に銀髯の老翁二人、上半身を現はしての圍碁、その影が汀に咲き競へる花菖蒲の影の間に笑みつゝ動ごく時、サツと涼風の吹き來りて、銀髯翁の微笑の影の俯仰と共に、花の影もゆら〳〵と動ごくに至りては、其泉の面にゆらぐ漣と共に、其の美を默視するに忍びぬのである。

眺めはこれに止らで、野中を流るゝ小川の邊の此の花、幾多の笑と美影とを淸き水に運ばしながら、乙女の燃ゆる心を色に現はし、其なよ〳〵とした艶麗な花の間に、銀碧玲瓏の玉を連ねた刄狀の葉を、泥中から拔き居る姿の、何ぞ氣高くして美觀の極みなる！六月は遂に菖蒲の花の天地である。

しかも〳〵此の花の陽氣なこと！燃ゆるやうな濃き色、笑める中にシマリあること。又其の態度如何にも熱心想に、あることを敎へんとするが如きは實に家庭の花として、吾人は朝夕、其の美觀と敎訓とに接せねばなりませぬ。

二　花菖蒲の詩

菖蒲の美觀を語るには、意餘ツて筆短く、とても無

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聲の書をものして、一々自然物を活す詩人の作物を拜借するに加かぬのであります。されど不幸なる哉、其の詩人の作物に、一々自然物を活す的の菖蒲の詩はありませぬので、稍や自分の意を得たものや、參考になるものを左に抜書きしました。

○花あやめの歌

（ロングフエロー）

あなうるはしき花あやめ
流れしづけき川の邊に
里をはなれし池の面に、
せきてぞ水を送るなる
牧場の中の小流に、
笑ふか汝は水車の
かけひの水にせかれつゝ、
せわしくめぐる音を聞きて
紡績と織機との小やみなく
歌ふ音色をよろこびて。
喜樂あれと生れ來て、
色もゆかしきこむらさき
勞めず紡がざるなれど
野邊も水邊も汝あれば
よろこばしくぞ見ゆるなる。
高くあがれる女が旌旗の、
風徐ろに吹き來れば
もとにとつどふ蘭の草は
日輪のおほみてのとゞかざる、
汝が領地の衛士にして。
つばさかゞやく蜻蛉は
汝がいくさの從者なれや、
ものゝぐつけし日光は
甲冑はきてたてとりて
樹々の下陰飄るなり。
虹と見ゆる汝は花は
ちよろづの中美しき
黄金の笏を手に取りて
あなたき翼をうちひろぐ
汝は大神の使なり。
詩神にぞあれ花あやめ
にぎあふ里もこち遠き、
森の流れの岸の邊に
歌ふや盧の汝が笛を
うつゝともなく我はきく。
あなうるはしき花あやめ
花咲きにほへ小流は
汝をしたひてうたふらむ。
なれは床しき歌の花
花咲きにほへとこしへに
地ぞうるはしかれとうたひつゝ。

○星と花

（フレッチャー）

靑きみ空はかゞやける
星なば花の御園にて、
地にはほゝ笑む花あやめ
葉末に於ける白露は、
宵々毎の星とこそ見ゆ。

○菖蒲の短歌

○

底清き淺きは水に影そひて、ふたへに見ゆるかきつばたかな。　覺性

○

此の池ゝ菖蒲に交るかきつばた、花ゆゑ人に知られぬる哉。　後鳥羽院

○

けふよりは汀のくさもなかりけり、あやめは軒にこもはこもまき　萬葉集

註、これは古へは今のチマキ(粽)もマコモで巻いた證據也

○

けふみれば玉のうてなもなかりけり、あやめのくさのいほりのみして。　遣拾集

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○十七字詩（俳句）

△井のすゑにあさく〳〵清し杜若　半残

△起き〳〵の心うごかすかきつばた　仙花

△屋根葺を井んでふける菖蒲哉　其角

△杜若似たりや似たり花の影　芭蕉

△皿池を咲きふさぎけり花あやめ　一映

△淵むまで花のさめぬやかきつばた　寄文

三　菖蒲と國風

佛蘭西では此の花を、王室の紋章として用ひますのは、我が邦の菊花に於けるやうだと聞えて居ります。尤も其は彼の國民の特性たる、燃ゆるやうな鋭意と熱心とを代表するのでありましやう。又獨逸の農家では屋上に此の花を植ると云ふ面白い風がありますので、其美しく咲き出る時分に田舍を旅行しますと、種々に彩られた花の珍らしさや奇麗さに驚くことがあるそうです。日本にも甲斐、陸奥などの農家の棟々に鳶尾を植える、これは大風に害を受けん爲めの用意であると云へ、旅人を慰め不知不識の間にお互も其美觀に浴することは非常で、面白い風習である上、東西其習慣を一にしたのはマア奇と云はねばなりますまい。

此の花はまた、歐米到る處一般に殿堂の裝飾として、種々に彫刻されますのはどういふ由來に基くのか、何を意味させて居るかは知らねど、歐米では溪蓀は使者を意味すと云つて居ります。

今其由來を話さんに、昔多くの花が『虹の祭』を開きました。處が孰れも今日を晴れと着飾つた中に、青い花を打ち纒ふた鳶尾、一きは目立まして、空をもしのがん其の色、輝く露の玉の飾りなど美しさは例ふる物もない位、されど不思議や此の貴美人の名を知つて居る者が居ませなんだので、傍の花は『御覧なさい、アノ方の虹のやうな衣の色を！』と云ひました處、言葉未だ終らぬに雨がしよぼ〳〵降り出して美しい虹が空に現はれたばかりでなく、花は雨を帶びて一入美しく見えましたので、集へる花共は異口同音に『オヽ虹！吾等は彼の君を、これから虹の使と呼びましやう。』と叫んだので、遂に其の名がついたとか云ひます。これからは鳶尾初め花菖蒲を『よき音づれの使』と意味し

ますそうで、ホーマーの詩中にも此のことが見えて居ります。

四　花菖蒲の歴史

このやうな奇麗な花は、其の栽培の歴史を語るに際しても、少なからず興味が湧くのである。

扨日本で之を初めて作り出したのは、文化文政の頃で、時の西丸御目付に松平左金吾と云ふ者が居りまして、痛く此の花を愛玩し、自園に栽培して年々新花を作り出して居たが、其後京都の禁裡御附とか云ふ役になり、そこへ行つて亦も盛んに培養しまして遂に一歳、光格天皇のお耳に達し内侍をして花を所望せられた。で、此の時から自然の此の花に貴い價がついて廻ることゝなつた。けれど、右の松平某は深く花の培養法を秘し、又其の花も切花として出す他、容易に人に讓與せなかつたので、未だ一般の流行をみるに到らなかつたとは、當時ではありさうなことである。

其の後彼は退役して郷里なる東京へ歸へる時、奥平某に一株を與へました。有難いことには此の一株から

して、廣く世上に流布することゝなり、當時珍花として『宇治の里』『長生殿』『七福神』など云ふ良變種を出すやうに迄なりました。

一説に、文化の昔去る好事家が、陸奥の安積の沼のハナガツミを取り寄せ、花園に植えて培養したら、數年ならぬに種々變り咲きの花が出來、遂に一般の流行を見るに到つた。と云ふては居るが、古記に依つても花がつみは四瓣と云ふことだから、之れより三瓣乃至六瓣のものが出來るとは、中々以て不思議です。

ついでだから申上げるが、彼の有名な堀切で、花菖蒲を栽培し初めたのは、これからズッと後のことで、初めは農家の片手業に過ぎなかつたそうですが、今では專門の一大菖蒲園となり、種類も四百餘になつたのは、全く堀切の土質が菖蒲に適當なからである。ア、堀切は兎に角、花菖蒲も舊社會の惡制度の犧牲になつた傾が大にあるのである。いま〳〵し。

五　花菖蒲と昆蟲

蝶の美しいのと花の奇麗なのとを寄せたら、實に生

物界の美の粋である。しかも自分は茲で冷たき理屈を以て、何故に蝶や蜂は花菖蒲を訪ひ、花は何故に蝶や蜂を招ぐかを明かにし、此の消息は決して無意義で無いことを證據立て、且つどうして花と蟲とがお互に其の意を遂するかを語るに止め、此の二つの美の粋を歌ひ稱することの出來ぬのを恨みとする。

花菖蒲の大きい三つの花瓣は、三方へ反り開き、各瓣の心に近い處に白い縱條があつて、昆蟲の目を惹くが、紫色の雌蕊は瓣形をして錨のやうに反り返り、例の花瓣の白黄條の上へ庵つて居る。しかも、それが外面の背に當る處は凹んで溝のやうになつて居るので、長い黄色の葯は其の溝に沿ふて居るから、一見葯即ち雄蕊の存在が分らぬ。けれど、多くの花粉と雄蕊の筒部に、特に蟲を招く爲めの花蜜を毎度御馳走に來る蝶や蜂は、それは〱上手にやツて來て、花粉も喰ひ蜜も含み、さツさと歸り行き、訪問の無駄でなかツたのにほく〱喜ぶであらう。

花は又、御馳走を貯へて待ツて居たほどあツて、彼等が來た爲めに受精即ち生殖の目的を達するのである。即ち蜂や蝶が、他の花菖蒲を今のやうに訪問した時、脚や體につけた花粉即ち雄蕊の粉を、ズンとやツて來た時、錨のやうに反ツた雌蕊の上に止り、此處に其の花粉を落すので、初めて雌蕊が結果を結び、種子を生む要素を得るのである。

語ツてみればこれ丈のことであるが、造化の妙は這處にも遠慮なく發起せられて居る。

六　花菖蒲の種類

昔は言葉の數も少く何事も單純であつたと見へ、今のやうに溪蓀、燕子花、鳶尾、花菖蒲など丶分ツて居らず、唯だ五月の端午に献菖蒲と云ふ儀式があツたので、單に菖蒲と云へば、此の時儀式に用ゐる例の匂ひの高い、別に花らしいものを開かぬ天南星科のショウブを指し、あやめかりふく、あやめの輿、あやめひく、あやめいろ、など云ふことや「五月雨にぬれ〱ひがんあやめ草、沼の岩かき波もしそ越せ」(兼實公)及今日はいとおなじ緑にうづもれて、草の庵も菖蒲ふく

なり」(定家卿)などでみると、あやめ草と云ふのも、アヤメと云ふのも、共に菖蒲と指すらしい。そうかと思ふと、初めの菖蒲と云ふ言葉も、此のアヤメと云ふ言葉も一面に於て又、鳶尾科の花菖蒲や燕子花を指して居るので、實に此の二つの言葉が、二種類共通の名詞となつて居て、別に區別が無かつたらしく思はれるのである。であるから、之はこうして於て私は今、花菖蒲の類、花を見る菖蒲の類に幾通りあるか、又それ等の種類がどこで區別してあるのかと云ふことを明かにしやうと思ひます。しかし端午の菖蒲に就いては時節も濟んだことであるし、科學上の位置もヨホド異なつて居るので、こゝには申し上げませぬ。

扨て、そこで一言申上げねばならぬことがある。それは花菖蒲とか燕子花とか云ふ種類の中に、又た種類即ち變種の多くあることで、甚だしきは何千を以て數へられることである。それは異花受精をなすに便利なからで、彼の花菖蒲の本元の堀切でも現に四五百種を持ち且つ年々新種を出して居て、三英咲より六、九、十二、十五英咲と瓣の數を變らせ、牡丹咲、狂ひ咲などの花容をさへ出して居るそうである。ですから、少し異花受精(此の熟語の説明は二葉園藝欄で何れ致します)のし難く、從つて人工媒助をやつても結實の面白く行かぬ燕子花には變種が少く、僅か七八種に過ぎぬ程だが、併しこの點にさへ注意して居る園藝家が居るなら、意外に珍花を出すかも知れません。花菖蒲類の變種は斯樣な有樣だから、玆に其のワザとらしい名の説明や何かを一々申さぬことにし、二葉園藝の爲め、家庭文學や理科、活花等の資料に、此の種類の植物學上の性質や効用をザツと説いてみやうと思ふ。但し括孤内の横文字は「學名」と云つて世界中通用する花の名であります。

捩菖蒲

春の末、地下莖からアヤメの葉に似て細く厚い葉を叢生し、白みある上、少し挫扭れて居るので此の名がある。夏の半に二尺許の花梗を出し、例の六瓣花を開く、其の白地に淡紫の條があるので美しい。花筒は短かけれど、永く落ちないで蛸の嚙みたやうなものになり、其の小さい扁い種實は薬にされるのである。一名馬藺又は馬楝と云ひ漢名を蠡實(本草綱目)と云ふ(I.ris ensata,thunb. var. Chinensis,Maxim.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小杜若

チザアヤメと異ふ所は、低くて小さいことと、葉が捩れて居らぬこと、花筒が瓣と同時に落ることである。花梗には一個の尖つた佛焔狀の苞と、一個の蕾花とを春の末に開く可愛いらしい草である。漢名を紫石菖（乾隆御製集）と云ふ(I.ruthenica, dryand)

杜若

夏の初め紫、白、紫斑などの美しい花を高き花梗の各苞の間から二三個を開き、其の内層の花瓣は細長いけれど、瓣狀雌蕊より短く先は尖つて居る。葉は中肋狀の脈を持たないで、アヤメより少し狹いが、花は大きく、ハナアヤメに似て色が淡い。一種四季咲と云つて四、七、十月に咲くのもあれど、春の花はどうしても大きい。水產植物で言海には（垣之端の義か、杜若はヤブメウガの誤用字）と書いてあつて、漢名は燕子花(潭洲府誌)(I.laeviyata, Fisch)

菖蒲

一名ハナアヤメ「アヤメは文目の義にて、葉の理につきて云へるか」とは言海に云ふ所。一體古歌などによく云はれる名であるが、それは主に別科の植物たる菖蒲草であることは前にも云つた通り。杜若より葉の幅が狹くて薄く、花も小さい上、内方の花瓣は、瓣狀の雌蕊より長くて廣い。其の花瓣の外面に網狀の波がある。紫碧色の花は夏の初めに開く。子房の橫斷面は銳き三角であるから、前種の鈍き三角狀と直ぐ區別が出來るのである。山溪に自生し 漢名を溪蓀（本草綱目）と云ふ。

一種、葉に白筋入のものを單に筋入と云ひ、鉢物に珍とせらる、白綠色の葉の奴を嫁あやめと云つて居る(I.sibirica L. var. orientaris, Thunb.)

花菖蒲

花も葉も大きく、勢のよいのが特色。葉は中肋狀の脈を有ち、花の内瓣は倒卵形で先きは尖らぬ。これは夏の見物で名花は六月の中旬へ行かねば咲かぬ。池沼に生育する者で株はなくても時節が來ればどしどし花は咲く。若し手入よくすれば、非常に立派なものが出來るので、近來益培養が盛んになつて來た。本篇の主眼とするのは此の種で、實に著名な觀賞植物である。漢名は玉蟬花(I. laeviyata, Fisch. var kaempferi, sclb)

紫羅傘

「此花の多種なる中に、逸早に咲く意ならむ」とは言海の云ふ所。花は小さいが紫色で、花瓣の脏は其の中央に縱行した雞冠狀の突起を有ち、緣は細裂して毛のやうになつて見え、紫碧色又は深紫の點がある。花には白、淡黃褐色などのもあるらしい。花梗は單一又は岐れて居る。一名イチハチ。漢名を鳶尾（本草綱目）と云ふ (I.tectorum Maxim)

しやが

葉は冬も枯れないで春になつて枝ある花梗を拔き、白くし碧色の花を四月の末から開く、形は小さく（此種の中）て變種はなく、他は紫羅傘に同じい。山野到る所の濕地に自生して居る故珍らしいとも思はぬが、一度手に取つて解剖してみると。其の美なる花容と色彩とに驚くのである。シヤガとは射干の音を誤用したのだと云ふ說がある。漢名を胡蝶花（秘傳花鏡）と云ふ(I.japonica, Thunb)

檜扇菖蒲

丈の高い各花梗に五六個の苞と花とを着け、内方の花瓣は外のより短くて細い。色は淡紫である(I.se-ora, L.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

姫しやが

大體はシヤガに同じいが、葉は細くて、花の外方の瓣が全邊の突起を有つて居る丈け異つて居る。深山に自生して塵外に其の美を恣にして居る（I. Qusaci-lipes, A. (Gr.)

洋種の者

で二種は既に舶來されて居る。一はニホヒシヤウブ（I. florentina, L）と云ひ他はキシヤウブ（I. pseuda-corus. L.）と稱へる。西洋では此のキシヤウブの根や I. germanica, L. 及び I. pallida, L. の根を藥用にするそうである。

檜扇

葉の出方が一列に兩横へ廣がつて居る形から、此の名を得たのだと云ふ。此の花は前の數種と屬を異にして居るのは、花瓣が深く裂けて、雌蕋は瓣狀をなして居らぬところなどにある。山野に少しは自生するが、大抵は庭に植える。花は濃い斑點のある赤黄色で、仲秋に開くすつきりとした花で、變種も少く、日本には一屬一種である。

番紅花

舶來植物で、前種とも屬を異にして居て、はやり一屬一種の花である。葉は厚く細くて一尺許、莖は土中に球をなして居て、紅い美くしい花を開く。雌蕋を取つて乾かし紅黄色になつたのを貫んで藥用にし、又た染料にもするそうである。辛くて苦い處が良藥の證か。言海に「水仙科にして」とあるのは、球が土中にあるから云つたのらしい。サフランと云ふのは蘭語の Saffran を其の音の儘用ゐたのだとか。一種花サフランと云ふのは、殊に美しい花を咲くのである。泊夫藍とも云ふ(Crocus. sativus, L.)

これで菖蒲、あやめ、花菖蒲などの語の中に總稱される花の、科學上の種類、即ち鳶尾科植物の話は濟みました。がこゝにちよッと申上げて置くことは、鳶尾科植物の花瓣中外方の三片は、實際は萼に當るものだと云ふことである。

佛國々花たる花菖蒲を、我等平民の花とし、熱心熱情を意味する花として、普く其の美觀を恣にしたいと思ふ。（完）

△妻の呼び方

妻を呼ぶに何んといつたらよからうか、私の妻は春子ともうします。今まで春々とよんでおつたのを俄にあらためて春子さんともいへず又春ちやんも小供にいふやうできまりがわるく、「オイ」「コラ」「オマヘ」……は尙々わるいとおもひます。名の呼びやう位どうでもいゝといふ方もあるが妻を尊重して我と同じ位置において見るとどーもそーは行かぬ一方は「アナタ」、一方は「オマヘ」甚不釣合である。尙又名位といふておると萬事そーなり易い、（妻を樣付にして呼ぶもあまり形式ぶつて不便又何となく愛情がうすいやうにもあるまいかとおもひ、されば妻より我を呼ぶに我と同じやうに呼捨にさすべきか、それも行はれそうになくて）家庭の改革を望むものは此のへんにも何とか注意したいとおもふ前號に淸水城山君は妻君に對して「キヨサン」と呼ばるゝと、まことに結構なことです。私は始めに過つて今改めるに困つております。いかにしていゝだろーか記者の御意見がうけたまりたいのです。（K 生）

婦人と政治

幸德秋水

立派な人達の作らへた日本の法律では、婦人が政談演説を聴く事を一般に禁じてある。然るに現今の新聞が日々其紙上に政治を論議し、公然婦女子等の讀むが儘に任かしてあるにも係らず、これに向つて一向何等の制裁も出來て居らぬのは如何。これから推して考へて見ると、同じ政治論でも目から這入るものは善いが耳から這入るものは惡い、と云ふ事に歸着する。余はこれを以て我が日本の女子を侮蔑したものと云はざるを得ぬ。即ち、彼等は女子なるものを一概に文字なきものと看做し、平易な言語を用ひて繰返し演述してこそ、其論議の眞意がわかれ、苟もそれが四角な文字となつて新聞紙上に顯はれて居る以上、決して其意味のある所がわかるものでないと、斯う高を括つて居る。極言すれば、人間以下の動物なりと思惟して居る。これ我が婦女子に對する大侮辱に非ずして何ぞや。

併し熟々當今の婦人社會を達觀するに、男子の側から受けつゝある、この甚しき侮蔑に對し、方に大に覺悟する處あらんとする婦人が果してありや。不道理なる迫害の柵を拔出やうと努力する女子が何處にあらうか。これには當今の代表者的人物――智識名望の兼備つた女教育家が好箇の證人である。彼等が一般の女子を教育するに當り、智徳の養成、良妻賢母の製造てふ點に於ては、常にその全力を注いでも惜まぬが、特りかの不合理の極たる法律に對しては、曾て一度も喙を入れた事がない。良妻賢母と云ふより外に、より大切なる、より正當なる婦人の權利、婦人の地位、婦人の愛と云つたやうな方面を開拓し、且つこれが伸張を計らんとしたものは今日迄に一人もなかつた。既に有識の女流大家にして斯の如し。失禮なる惡口を放つやうではあるが、此他普通の女子が抱きつゝある所の思想、見識の如きは略ぼ察するに餘りあり。

若し今日の婦人が夫に服し、子を養育する丈で以て能事畢れりとなすならば、かの『七去三從』時代の女子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と何の選ぶ所があらう。婦人とは矢張男子の奴隷である。若くは意思なき人形である。去り乍ら、余とても絶對にこの良妻賢母主義の不必要を認めるものではない。只何故に婦人のみが獨り服從せねばならぬか、と云ふ點が余をして斯くの如く大に叫ばしむる所以。由來良妻賢母てふ主義の中には、常に一種の奴隷的性質が含まれてあつた。現今の社會にして眞正の良妻賢母を欲するなら、宜しく先づ從來の教育主義を更めねばならぬ。然り、教育主義の革新！狹隘、凡庸の見地から離れ、こゝに政治的の智識を注入するが如き遠大の方針に出でねばならぬ、時代の政治を知らず、時代の政治に趣味を持たぬ底の婦女子が、抑も何等の重きを其時代に致す事が出來やうぞ。

　但し余はこの所謂政治と云ふ事に就いて、少しく注釋を施すべき要を見る。余の意味せる政治とは單に劍を佩び、勳章を輝かす人斗りの所有物ではない。若し劍や勳章が一國の政治に參與する人の記號であるならば、坊樣の五月人形は悉く政治家である。若しまた

議員たる人々が政治をするものとするならば、下屑社會の博徒等も皆な政治家の仲間入が出來る筈。政治とは此樣な汚ないものではない。と同時に、しかく六ケ敷きものではない。仁德天皇が民の竈から立昇る炊烟を見て、我事の如くに喜ばせられたのあの御心――萬民の生活を安樂にすること、これが政治である。今一層平易な言葉で云ふと、政治とは婦人の擔當する米櫃をば、いつも安全にがたつかせぬやうにする事より外にはない。して見れば、女子と政治との間には洵に重大の關係が結ばれて居るものと云はねばならぬ。

　今日は露國との戰爭中である。これも本源を尋ると男子斗りのした事だが、其影響はと云へば一番に婦人の頭上に降かゝつて來る。即ち臺所の通帳に大なる狂ひが生ずるのである。物價が高くなるのに、主人から受取る金額は平時の儘だし、特に一方からは頻りに節儉々々と迫られる、こゝに於て世の所謂良妻賢母の徒、據つて技倆を示すべき時節であるが、つら〱考へて見ると甚だしき無理な注文で、それを強ひられる婦人

の運命には、實に無限の同情を濺ぐことを禁じ得ぬ。多くの婦人の中にはこの哀れな境遇を自覺して居る人もあるであらう。しかも、政治と無關係なる女の身では、如何ともせん術を知らぬのである。

世の中の習慣では、政治の事に携つて居る男子が毎夜の如く家を外にして遊んで居ても、決して其無責任をば咎めない。又此頃兵士の方々は、出征に臨んで往々其妻を離縁するやうだが、余には全然其理由がわからない。國家に大事が起れば、其時こそ大に役立つべき妻の必要を見るのであるに、態々それを離縁するとは何事であらう。自分に用事のある折丈傍に置いて用事がなくなれば、放出す――これでは妻と云つても名のみで、換言すれば、婦人は全く太平の御代の玩弄物に外ならぬ。

余は亦日本の婦人に對して平生氣の毒に思つて居る事がある。それは不公平なる法律が存在して居る事で中にも姦淫等の場合に、男子を罰せずして女斗りを犯罪者と看做すなどは、其最も甚しいものである。尤もこれに就ては、七八年來議案となつて議會に顯はれるが、何時も要領を得ずに消滅して了ふ。これ果して何の故か。婦人に政治的勢力がないからである。そうして、從來の婦人社會がこの不合理なる束縛の下に甘んじて服從して居たから、斯くの如き不名譽な法律が今も尚ほ存在して居るのである。

婦人が臺所を引受けるのは、其天性にも適合した至極好ましい事ではあるが、大事が起れば直ぐに拋棄てられる――此樣な無法な事が何處にあらう。常に服從、常に命令、婦人は全然男子の快樂權威の犠牲者で、天賦の利益、權能を惜しげもなく拋擲して居る。既に自分自身の頭に掛つて居る權利をさへ保護の出來ぬ位故自分の亭主、若しくば子や孫の權利を伸張せしめ得ぬのは敢て不思議な事ではない。繰返して云ふが、今日の婦人は『七去三從』時代の婦人と比較して、そこに大なる徑庭がない。極言すると女は生きたる竈である。自分自身で活動の出來ぬものである。世の中の人は今日の婦人を見て進歩せりと云ふ。或は然らむ。今や軍

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國の必要に應じて、數多の婦人は白衣の看護婦たらんと望むものがある。誠に殊勝な事で、大奮發と云はねばならぬが、併し戰爭は一時のもので、從つて看護の任務もほんの短時間で事が濟む。余はこれよりも何故早くかゝる篤志ある婦人が、自分等の周圍に呻吟して居る、何十萬と云ふ同性の人を助けないのであらうかと思ふ。同性の人とは云ふ迄もなく女工である。彼等は如何に酷き運命に壓せられて、其健康を傷り、其品性を墮落せしめつゝあるか。近頃は賃銀が低いと云ふ關係で、工場通ひの勞働者は皆な婦人になつて了つた試みに最近の調査表で見ると、男工の十四萬二千人に對して、二十四萬五千餘の大數が女工である。そうして、此中に十四歲未滿の少女が三萬近くもあつて、日に僅か五六錢の賃銀を貰ふ斗りに、纖弱き腕を動かせて居る始末。實に言語に絕したる悲慘の事實ではあるまいか。彼等は皆な有望なる未來を持つ所の未婚の乙女で、精神の開發、德性の修養に維日も足らぬ時代であるにも拘らず、殆んど拐されるやうに連れ出されて、牢屋同樣の中に幽閉される。かくて、健康は傷なふ。智識の注入の途は絕える。品行は光輝を失せて、甚しきは惡疾を受けて不具者とさへなり果てるものもある。誰とて人の子、末は立派な人の妻となるべき身であり乍らかくの如き不運、薄命――定めし新聞紙を見て居る人は、かゝる哀れな雜報記事に日々目を停めて居る事であらう。若し世の中の婦人にして、此等女工の運命を思ふて何の感じも起らぬとならば、それは全く鬼の心である。看護婦になつて力を盡すのは只の一時であるが、これは每日の出來事で、二六時中何十萬と云ふ女性が嬲り殺しになつて居る。婦人の心が果して芳しき愛なれば、宜しくまづ此手近な處へ其光輝を發揮せねばならぬ。

總じて婦人の社界上の地位が進むのは、其中の只一人が高くなつたとて役に立たぬ。一般の婦人が步調を揃へて偉大になつてこそ、始めて其所に勢力が顯はれて來るのである。西洋の諺にもある通り、いくら鎖が丈夫なりとて、中に一つでも脆い分子が交つて居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れば、其鎖は終に用をなさぬ。かるが故に、今の婦人に於ける最大の急務は、多數の同性者を其卑き地位から高める事でなければならぬ。そして、これを計るには先づ國の政治に絶えず觸接し居る必要がある。日本の女子の悲運なりしは、兎角政治の點に冷淡であつた爲で、男子は其間に氣隨氣儘な慣習や法律を作つて了つた。西洋人は日本の女を評して可愛く優しい、と云つて居るが、其實賞めたのか冷かしたのか全く解らぬ併し余は斷じて云ふ。日本婦人は決して左程の意久地なしではない。其證據には能く女が口癖のやうにして訴へるではないか。それは『妾がこれで男でしたらやつて見せます。』と。慥に內心では口惜しいと感じて居るのである。男子側の侮辱に無念の涙を飲んで居るのである。これ大に余の聽いて愉快とする處であるが、只こゝに一つ殘念なるは『妾が男なれば……』と云ふ條件のある事。余思ふに、男であつたら何も奮發して起つ必要がない、寧ろ女なればこそ、今の時大に起つて努力する餘地があるのである。世間では女が公の爲に働くのを見て生意氣だと云ふ。成程普通の眼光から見れば、獨り水平線以上に出た人が生意氣に映るであらう。老人の話を聞くに、往時人力車の發明された當時などは、誰でも人力車に乘つた人なら、直ぐに世間から『生意氣』なる評言を受けたとある。凡て世の中の噂と云ふものは此樣なもので。恐らく歯牙にかける價値がないであらう。西洋の婦人は洽ねく自由と權利とを共有して居る。これは生意氣の度の一層高いのである。特に濠洲では婦人に撰擧權をさへ與へて居るがそれも只若き女子ばかりではない。半白の頭髮を持つた老年の婦人もあれば、汚い衣服を着た勞働者の妻もある。いざ選擧の當日となると、其場內の光景が實に清新の趣味に滿ち〱、自由と平等の空氣が溢れて居るやうに見えるのである。されば世界で一番幸福な國と云へば、日本と障子一枚の彼方にある此濠洲であらう。我現今の國情では、婦人に選擧權を與へる事は尙早であるが、政治に觸接せしめると云ふ事は焦眉の急と云つて宜い。獨逸に若き二人の娘を持てるゐる老紳

士があつた。老紳士は議員選擧の當日、私かに社會黨以外の者を選出しやうとした時、二個の娘はそれを窺知つて父に反對した。それでも頑固な父はどうしても動かないので、娘は斷然意を決し、其朝父のまだ褥中にあるを幸ひに、繩で以て身體を縛り上げ、如何にもかくも起つ事の出來ぬ迄にした上、二人はやつと選擧塲に赴き、婦人社會の代表者たる社會黨員を選出したとの話がある。余は必ずしも此娘の行爲に感心はせざるも、彼等が信ずる所を飽く迄も遂行せんとする、其强健なる意思の發動に至りては方に大に學ぶべき點あるを發見する也。

幸德氏の辯論には常に詩人的熱烈の情緒溢れ、深刻骨をも刺さんとす。本篇は例の婦人の爲にせられたる講演なるが、當日の參聽廿に滿たず、かくては折角の名玉を無人の境に葬り去るの恨みあり。即こゝに掲げて廣く諸君と共にこれを味はんとす。

注意

二葉園藝＝花好の人の爲、質問隨意の事。
家庭通信＝此欄は讀者諸君の集るべき倶樂部。
疾病衞生上の相談＝今後御相談に應ず。
讀者の顧問＝次號より再興。

二葉園藝

エデンの花守

○六月の花

此の月はまだ〳〵花の世の中で、ちよつと散歩に出ましても鴨跖、盤龍參、弟切草、たうぎほうし、合歡木、紫陽花などが笑ひを迎へて呉れますし、庭や花園には錦葵、紅藍花、王不留行、巴草、山胭脂、鳳仙花、花菖蒲、天竺牡丹、向日葵、安石榴、天滿星など、既に咲たり咲きかけたりして居ます上、野邊の草叢の中に所謂名も知れぬ小草は、小さいのに似合ず奇麗に咲いて居るので、自然界に於ける吾人は少しも寂莫を感ぜんのであります。追々暑くなり梅雨にもなりますが、自然はそれを償ふ丈けの美しい裝ひと、産物とを與へて呉れますから、小言を云はないで、裟婆から勝ち得た不平を、這の舞臺で晴らして下さい。

○花菖蒲の育て方

此の花に就いての氣焔を吐いた私は、こゝで、山梨の小山君への答へやら何やらに、其の栽培法の大體を話します。

此の花を作るには、灌水に便利な處を擇び、二尺ぐらゐの間を置いて、田の畔のやうなものを作り、其の上に一株づゝ植えつけて、水は常に畦と畦との間に湛えて置くのであります。花が濟めば成るべく水の過ぎないやうにして、不絶勸さつて雜草の生えぬやうにし、冬になると水を絶ち、寒中などには藁を敷いて、根元の凍らぬやうに保護しなければなりませぬ。そうして春の彼岸になりますと、鋤き返へして肥料を與へ、水

を遣るやうにするのです。肥料は油粕、乾鰮などに燐酸肥料を少し加へて用ふるのであるが、流義により地方によつて少しづゝは違ひます。それから燕子ならば年中水のある處がよいやうですし、渓蓀ならば、年中水のない處でも立派に育ちます。肥料は前に云つたやうな得難いものは小家庭では使ひ難いから、人尿に灰を混ぜてやつてもよい。別に秘訣もクソもありません。

○花の種屋

種子屋の信用あるものを紹介して呉れと云ふ質問は千葉の唯君初め方々の諸君から參りました。これは地方のお方には必要なことだから早速お答へすることにしました。

東京を初め大阪 京都、千葉埼玉の邊から種子の目錄を出版して地方の村役場や區長へ配布するのばかりを見ると如何にも立派そうであるが、事實は大反對で、二間口の小家の机一脚の上に販賣部も採種部も出版部もあると云ふ仕末ですから、七八分は仲買と胡麻化しを派れて居るやうであります。吾が跟如きはどれ丈けシテやられたか知れませんので、今は米國から(小々高いが)珍らしものを取り寄せることに致したくらゐ。尤も東京に居られる方は實物を見て買はれるから殊に結構ですが地方ではそうは參らんのであります。私も東京へ出て之等のことを見ぬ先きでこそやられましたが、今は實際調査の結果内地産の種子は

△早稻田農園　(牛込區早稻田穴八幡坂上)

△札幌興農園　(北海道札幌市南二條)

の二ヶ所から取ることに定めました。殊に札幌農園の如きは隨分大仕掛の採收場も持つて居ます。此の他東京の三田育種場も少しは信用があるやうです。

○花の書物

花を作つたり研究したり、菜や果物を作るに參考となる書物を紹介せよとの質問もタント參りました。これは隨分な難題で、一々特色のある多くの書物の中、どうしてアレがよい之が悪いと申されましやう。しかし一體が家庭向きの園藝書がないやうです。尤も家庭と銘を打つては出て居れど、どうも思はしからんですから此の答は暫く預りとしまして、その代り次號から撰擇次第、ザツと此欄が家庭文庫欄で紹介致します。

▼次號からは、蔬菜や果物に就て少々申上げたい。

▼唯君に申上げます。足下の花の科名は其の内手紙で御知らせします　(二葉)

家庭通信

此欄には何方にても投稿隨意の事

△予の家庭　かごしま　みうら

余が新斐とすめる家は、町をはなれた丘陵の間にある。街からは五六町も水に沿ふて坂路を上つた處で、丘の間から薩摩の海と櫻島とが見える。天氣のよい日には油の様な波の上を白帆がかろくすべりゆく。又、時雨れては、波も島も暗くなるともある。朝は東雲の色美しく櫻島の左の肩を彩りて、波を紫にそめ、夕は月又島の頂よりいでゝ、潮に金光をながす。暗の夜は漁火三四、空の星にまがひて、淋しき我家に清き望を與ふ。

天然の景はかやうに美しいが、不便な事は甚だしい。妻は毎日〳〵山

坂を上下して市にいで、肉や野菜など自分にさげてくるのである。妻が忙しい時は、余も勝手にいでゝ手傳ひ、寒中皿茶椀等を裏の谷水で洗ふたとがあるが指のきれる様に冷たかつた。併し妻は之を毎朝毎夕して居る、ア、どんなにつらからう。余に嫁する迄は炊事などしたとのない身が、俄に手鍋さげ水も汲む身となつた。吾が爲めとはいへツラ[イ]と思ふともあるであらう、と同情に堪えなかつた。

日曜日などには、二人で田舎に散歩に出る。櫻島に渡つたり、山中に入つて龍膽の花などもとめたり、又夏の頃霧島の山奥にわけ入つたともあつた。

予等は、淸い生涯を送らむとを望む。一夕二人山間を散歩して、樹間の小家よりもるゝ燈火の影を見て、余は妻に語つた。余等は此世の榮花は少しも望まぬ。唯衣食に事をかゝねば足る。その外は心を内部の光にむけて、茅屋の内にも淸い愛情と喜ばしき平和のみつる様にしたいものである。一室に一家内爐をかこんで、芋の汁どもすゝつて睦じく一日を送り一日を迎ふるのは、どんなに樂しいとであらう。すゝけた天井でも、こわれた壁でも、愛の光と平和の色とに美しくかゞやくであらうと。

余等の前途は暗くて見えぬ。霧にとざゝれた路を行く様なものである。けれども、足もとの草花の美しいのを摘みながら、一歩〳〵霧をわけて、その路を歩いて居たならば、いつか霧も晴れて、滿目淸朗の天地にいづる時があるであらう。

余は學校教師である。

＊　＊　＊　＊

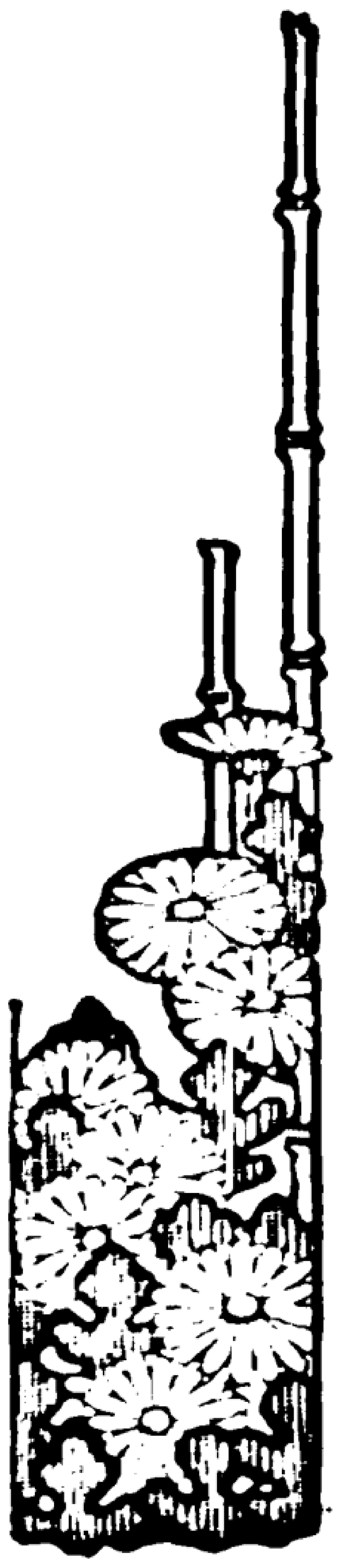
余の家庭に集る新聞雜誌は、萬朝報、聖書の研究、家庭の友、家庭雜誌、など。いつも二人の間によまるゝものは、内村氏の宗教の書、蘆花氏の小說、枯川氏等の小品文。余自身に獨り學んで居るものは英語英文學の初步。妻のは家政學料理法など。遊びにくるのは多くは學校の女の子。

風の音水のひゞきのすみこゝち

△卒業の上は

高師　ひろし生

私は五年ほど前に結婚をして一寸家庭も造つて見ましたが（實は私自身の家庭ではなく親の厄介になつて）どーも思ふやうに行かず、これは二人が萬事不行屆きでまだ家庭を持つだけの資格が足らぬ故だとおもひ、永い一生をこのまゝに暮らすは殘念だからと内々相談の上、この東京に來て、別々に、私は今の學校に彼はかなしくも人の内につとめて、僅かづゝの暇を貰ふて、一心に勉强をしております。ずいぶん色々の苦しいめに遇ひました、一々かくことは出來ませぬが、なれると左程でもなく、安々とうれしいやうになつて來ます、二人の間柄につきても時々切なる思ひに沈むことがありますが、今は夫婦でなく、かたく兄弟の義をむすんでおります。この家庭雜誌は、私にとりては唯一の恩人で、これによつて指導せらるゝこと、慰籍なうくること、實に大なるものであります、折々立派なる諸君の家庭のさまや、うるはしい間柄の御夫婦のことを見ると、羨ましくて、又、かなしくなつてくることもございます。併し私も明年はこゝを卒業して、こんどは思ふやうに、愉快な家庭を造られやうかとたのしんでおります。彼よりおこす手紙には只心をいためぬやうに、卒業の上は、といふ文句がいつもくりかへされるのであります。



體育と化粧法

寺院又は美術館なぞに行くと、其欄間や壁のところに、彫刻や繪畫の天人像がかゝげてあるのを見ることがある。其容貌美しく豐かに、肉つきよく、艶ありて働作の優美快活げなる、吾人が其前に立つときは、一種高尚なる美感にうたれざるを得ない。今假りにこの天人に代ふるに、今日所謂美人としてはやさるゝ婦人の肖像を以てすれば如何。固より顔は奇麗である。否きれいに造られをる。衣裳や髪飾も立派である。たしかに凡俗の心を動かすにはちがいない。併しこれを注意して見るときは、全身やせて色艶なく、顔の中には何となくすゝまぬやうな不快なあと。それに、その心身のつかれ、おとろへが自ら表されて居て、吾人は忽ちあはれに氣の毒なといふ感が起つて來る。

これは只繪畫彫刻など、其模形についての談話であるが、今實際に吾人が日常目擊しておる、我婦人について考へてごらんなさい。容貌姿勢又其化粧に至るまで、果して眞に美といふべきでせうか。

婦人を一種の愛好的玩弄物として何等の働きもなさしめざるものと見れば、これ等のもの、あるひは完全なりと云ひ得るかも知らぬ、が今日世界競爭の上に立つて文明國とほこる吾人にして、やはり不都合なる舊時陋習の脱せざるは、實に殘念で、且つ耻づべきことではあるまいか。男も女もふるつてこの陋習を破り、その美とするところの誤れる思想をかへ、所謂眞の文明的の美趣を尙ぶやうにせねばならぬ。因習の久しき我も人もあまり氣付かぬことではあるが、肝腎の體育を忘れ、衛生を省みず、たくさんの金と時とを費して、この奇態なる美?を買ふことにあせり狂ふとは何たることであらうか。

今日傳へらるゝところの美人の標本なるものは先づ面長の瓜實顔、瘠ぎすにてなよ〳〵せる、胸のせまき、流肩の着た衣も堪へぬ風情、而も成るたけ長大、成るたけたくさんの襲着をなし何のなすこともなく、靜かに雛然と座つておるのである。偶々濃紅の顔色、筋

肉のよく發育したる强壯のものを見れば、頭から下賤のものとして輕侮し、勞働者として侮蔑する。あゝ世人のあやまれる未だ眞の美、尙又眞の婦人の價値をも知らぬのである、西洋人は一般に身躰長大で姿勢が正整しい。殊に其婦人は我に比べて著しい相違である。彼等の美人とする處はよく體育にも生理上にもかないて、眞に體質の美を尙ぶ。色艶よく丸形の顏で、適度に肥へたること、それに姿勢の端正なるをば格別に美とする。彼等は歩くにも活溌で男子に劣らず、日々よく職務を果たして氣象もなか〳〵元氣である。予は時々彼等の夫婦が愉快げに造作もなく語りつゝ散歩しておるのを見てまことに美ましくてならぬ。

古來人類の最も美麗なりしは古への希臘人である。彼等の肖像の繪畫や彫刻にのこれるものを見ても判るが、殆んど人間崇高の美を鍾め、まへにいへる天人と聊か選ぶ所かない。彼等は常に美といふことを重んじ、身體についても全體の釣合よく、調和的に十分發達せるを望み、この結果、毎日一定の時間必ず體操場に出て練習をつとめ、走ること飛ぶこと鎗投げ游泳等、實に力を用ゐたるものである。

支那にても古代は大にこの體質の美を尙びしことがわかる。孔子のかつて門人子夏と問答せしとき、子夏巧笑倩たり美目盼たり素以て絢をなす、何の謂ぞやととひしに孔子答へて繪の事は素を後にす云々と論語にかいてある。是れ明かに體質の美を賞め、然る後適宜の粧を以て多々益美をなすことを云つたのであらう。

我國においても、古代の婦人はなか〳〵體格がよく、筋肉なども十分發育しておつたものらしい。平安朝時代の宮女達の繪を見てもわかる。顏は丸形でふつくらとしておるのが多い。戰國の時より徳川時代になつても大奥の女中共は武藝を習ひ又舞、踊りなども演習して自然體育的に協つておつたのである。

今日我國の美人といふ考へがどこから起りしか、又如何に變遷し來りしか又彼等のなす化粧法とは如何なるもか、其由來の由來及び今後如何に改良して行くべきかは大に考究すべき問題であると思ふ。左に三島博

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

士評述の『室内體育』中より一節を抄録す。(近藤生稿)

顔色が蒼白く、胸廓が狭い痩せこけた女は世間に澤山あるが、此れは氣をつかいすぎて運動をせなんだ證據である。それで折角學問や技藝を學んだとて、身體が弱いために生ずる不幸があるならば迚ても收支相償はぬ話である。

ところが、我國などにてはこんな色の蒼白い頸の細い首の長い、胸がうすくて狭い肋骨の見える、手足の痩せた、ほつそりした幽靈然とした女(私はこんな「タイプ」を「結核好」と名付けておるが)が大にもてる。それは現に去年三井呉服店が新橋停車塲に掲げた廣告の招牌繪で解かる。彼の店の主なる人は、私があれを結核好みの幽靈婦人と稱したのに對して、美術心がないからそんなことをいふのだと冷評したさうな。私は多くの日本人には身躰に對する美術心は皆無だと思ふ。幽靈が美服を着けたとて何の美人とならう。何の美術であらう。外國の裁縫師は、殊更體格の美なる婦人を選び、之れに美服を着させて廣告に遣ふといふに、日本の三井呉服店は幽靈を繪いて廣告するとはさても異つた趣向だ。容貌の美のみが美術だとか美人だとか思ふて居るほどに美術に幼稚では、とても人體美術の話は出來ぬ。人身は解剖的生理的の原則に適つて、天然の美なる形狀に發育したのが美術である。幽靈女の病理的婦人が何の美人もないものだ。(中略)ではどーしたら、女子の頸や、胸の肉落ち、骨露るゝのを醫すことが出來きるかといふ問題は、吾曹の數々聞くところである。然し、これは決してむづかしい問題ではない。女子をして豐美なる頸と健全なる胸とを有せしめんと欲せば、其部分にある筋肉を發達させるやうな運動さへすればよいのである。藥などは飲んで何の役にも立たぬ、要するに滋養分ある食物をとり、適宜の運動をすれば其容貌も益麗はしく、其眼もます〳〵鮮かに、其頸や胸もます〳〵豐かに、皮膚は櫻色となり、肉は肥へすぎず、やせすぎす、風姿優美に、擧動閑雅に、實に天津乙女の如き美人となることが出來る。

實に味ある辭にはあらずや。尙この題目につきて次號にすこしく論することがある。

整容法(體育の栞)

これは其名の示す如く身體の姿勢を正しく美麗にする法で、殊に胸部と兩肩の位置を整正へ脊柱を眞直にするに最もよろし。(醫師の談によれば、吾人の多くは脊柱彎曲し、胸部狭く、完全の發育ともいふべきは殆んどない位故、吾人はつとめて日常の作坐行動に注意し、又時々この整容法を行ふ必要がある。

一 これを行ふには、先づ直立して全身の正しき姿勢をとり、(不動の姿勢)ことに胸部を十分前方に張り、兩肩は左右高低なく、肩頭を平等に引き、手は自然に股側に垂れる。且つ又頭を眞直にし、脚を十分に伸ばし、足部は正しく地につける。次ぎに兩臂を屈することなく、開掌(手を開く事)のまゝ脈部を相對して、前方より徐々と上方に擧げ、(手の運動につれて徐々に踵を上ぐる)止まることなく、後、下の方に、側方にて大きな圓形を畫くやうに、徐々に間隙なく股側に下す、(臂を下すとき、同樣に徐々踵を下す)臂を上方に擧ぐるときは鼻孔より吸氣をなし、下すときは口と鼻にて呼氣、以上數回くりかへす。

二 用意は前に同じく兩臂を屈することなく徐々側方より直擧す(手の甲が內部にて双方相對向するやうに)上方にて僅かに止まり、再び側方より徐々に股側に下す。但し呼吸、踵の上下は共に一に同じ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

獄中なる 枯川兄を想ふ

石川旭山

鐵窓の内とはいへ、朝には夜も明け、夕には日の暮るゝことならん、今は兄を送りて茲に三十日三十夜を過ぎぬ。爾來兄が消息を聞くこと絶えずと雖ども、彼の打ち解けたる、温平たる、兄が談話を聞く能はざるは如何に我等をして悲愁を感せしむるものぞ。吾等既に然り、兄が最愛なる令室の情は又た如何あらん。

されど兄よ、兄や却つて幸ならざるに非ず。國家は威力を以て兄を壓せんとせり。然れども事は全く無意味なりき。兄に於ては一匹の蚤の痒きにだも値せざるべければなり。而して兄や讀書を成し、沈思默想するの時を得て出獄の後大いに飛躍するの精力を養ひつゝあるならん。是れ兄が幸とする所ならずや。

兄が幸は是れのみにあらず。蓋し兄が入獄は天下の志士をして甚だしく激憤せしめたり。殊に我が社會主義者に於て然りき。然り而して日本革命の氣運は之より漸く急激ならんとす。嗚呼それ兄が頭上に下されし天の榮光にあらずや。

兄が幸は尙ほ此の他にあり。兄を鐵窓の下に鎖せる

日本國は世界外交史ありて以來未曾有の恥辱なる外債を負ふに至れり。而もお目出度き日本國民は祝捷と稱して連夜提灯行列をなしつゝあり。就中都下各新聞社通信社等の發起に係る其れの如きは言語同斷の事と言ふべかりき。彼等は國民を煽動して戰爭に熱狂せしめ、日本幾萬の家庭を悲痛慘憺の底に沈ましめ、猶は飽き足らで提灯行列を企て、自ら主幹と稱しながら行列を整へんとはせず。泥醉、混亂、揭句の果が二十名の慘死！、噫何たる悲慘よ。何たる罪惡よ。然も兄や之を耳にすることなく、之を目にすることなく、唯だ安らけく天と親しみ、地と和し、我と語り、光明に浴し、眞理に入る、幸なるは兄が身の上なる哉。

然れども翻つて又た思ふ、兄よ、兄に依て產れたりし我が家庭雜誌は暫時たりとも兄と離れて甚だ寂寥を感ずるなり。又天下の苟も世を憂ふるの士は、兄が出獄後の飛躍を翹望して待つなり。且つや角筈の里、緑滴る兄が家庭、梢に啼く小鳥の聲さへ離別の情の切なるを訴ふるなり。

嗚呼日の長きことよ。夜の長きことよ。過去三十日の如何に長かりしよ。以後三十日の如何に長かるべきよ。一日千秋の想ひは、予初めて之あり。

親の財産

財産家の令息に與ふ

××兄よ。

近頃間接に君の行動を覗ふに、甚だ憂慮に堪へざるものあるを認む。今や君は四肢五體の血液を舉げて沸騰せしめ、日夜蕩樂の淵に沈溺しつゝあり。多分君も放肆なる此頃の生活を自身で自覺して居るであらう。勿論君は資産家の令息にして、余の如き素寒貧と自ら選を異にするは云ふ迄もなし。しかも其蕩樂のすべての費用を親よりねだるとは何事ぞ。

兩親の資産　！これ果して何物なるか。××家の所有物！これが何であらう。余は飾りなく云ふ。兄が貴かるべき頭腦の中央には、常に一種強烈なる力を有する迷想のあるあり、而してこの迷想が毎に君をしてコンマ以下の人間に墮落せしむ。迷想とは外ではない即ち『我には親讓りの金あり。』てふこと。全體金錢とは社會生存上の便利を計り、假りに作られた一國の共有物であつて、決して個人々々の私有に屬すべき性質のものではないのである。併し乍ら、余はこれを人間の利慾的競爭心が惹起した惡結果として或點迄はすなをに論爭を讓るべき理由を見る。唯其資産を歷代の子孫に遺すと云ふ點に至つては、抑も何たる背理、何たる不公平、余はこれに向つて何等正當の根蔕あるべしとも思はぬ。余の眼底には極めて無意味なる舊慣習の殘壘とより外に、映すべき何物もない。尤も、頭腦の古き、利己一遍に傾いた一般の社會は今日でも尚ほこれを是なり信じて居やう。從て、世の親達の間には成可的多くの資産を其子に讓る事を以て、畢生の目的として居る人も澤山あるであらう。去り乍ら、これは最早舊人物の舊夢想で、斷して正しき思想と云ふ事は出來ぬ。今代の余等青年輩にして、苟も立派なる身體を持ち、普通の常識を備へ、更に可也の教育を受けて、自家獨特の才能を充分に發揮する事が出來得るものである以上、決してかゝる夢想に迷はされるべきでない余は固より、君に於て心身のよく發達したる青年を見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。しかも事こゝに出でず、何を置いても只一に『親の財産』をのみ狙ふと云ふのは、如何に意氣地のなき骨頂ぞや、世に卑劣なる心事と名けられるもの、中で、果して此程の賤しい心底が又とあらうか。

××兄よ。君が『我には親讓りの金あり。』と慢心する瞬間は、恰も君の精神が一歩々々暗黒の地に近づきつゝあるのである。假令親に巨萬の財寶ありとも、眞に自己の手に依りて作らざる以上、决して其子の所有となるべきものではない。余等の意見に依れば、親の歿後若しも遺産があるならば、宜しく其子をして奇麗に社會へ返納せしめよ。而して改めて其子に幸福なる自主獨立の生涯を送らしめよ。――かうである。かるが故に、其子にして若し親の財産を私に覬ふ樣な事があるならば、夫は一種の窃盜と云つても差支へない。又自己の蕩樂の爲に親の金錢をねだるならば、恰もそれは體の好い强盜とも云へるのであらう。これ斷じて潔白なる人の行動とは許されぬ。

併し、余が今かゝる思想を君に呈して、急に其實行を勸めんとするは稍迂に近い。只余が最後に一言したきは『宜しく自己の額に汗して金を得よ。』である。若しも君の身體に左程金錢の必要があるなれば、宜しく先づ自ら起つて働くを要す。君旣に精神上の財産を親より得た。即ち敎育に依りて天賦の才能は遺憾なく開發された。これが何より貴い財産、壽命の續く以上、火事にも洪水にも、損失の憂ひなき無二の財産にはあらざるか。

君よ。君が若し曩に余に語りし如くに、眞實社會の爲に貢獻する所あらんとならば、速かに眞面目なる生活に返れ。而して今日の友と遠かれ。見よ、君が部屋に飾られたる美しき書架を。今や全く主人の寵を失ひ空しく塵中に葬られつゝあらずや。敢て反省を促す。

某月某日　　渚山生

寄贈雜誌

「家庭の友」二ノ二號「朝鮮評論」一ノ二號「日本女學生」十五號「新生命」二ノ三號「學の友」廿九號「通俗宗敎談」二十號「佛敎婦人」四ノ五號「土木學講義錄」九號「二十世紀の婦人」一ノ四號「求道」一ノ四號「阿路波」五號「常磐」七ノ五號「婦人新報」八十四號「中學科講義錄」二ノ二號「手紙雜誌」一ノ三號「婦女新聞」每號「佐賀家庭新聞」每號「家庭新聞」每號「割烹新聞」每號

角筈の小有村舍

五月中旬の一日、余は留守見舞として角筈の里なる小有村舍を訪れた。固より名譽ある出征軍人の留守宅なられば、門前に一つの馬車の停まるなく、人力車の響も傳はらない。況して、新聞社の訪問記者の姿の見えやう筈はないのである。

奥様は例の六疊の自分の部屋――一方は玄關、他の一方は客間に通じ、前は庭に接した長廊下、更に背後が下婢の部屋と臺所とへ關聯して居ると云ふ、主婦の部屋としては最も便利な一室――に孤獨で座つて居られた。丁度中程の所に長火鉢が壁に寄せて置いてあり、其長火鉢の前に座つて手の屆く程の高さには、長さ三尺位の小棚があつて、趣きの面白い書架を形造つて居る。並んだ書物の背中を見ると、「食道樂」「まだ見ぬ親」「世界讀本」など家庭書類計りである。其上に掛つた扁額の繪は、ワシントン及び其母の肖像畫、座敷の襖子に近い方には、姿見と他の美しい色繪の額が掛つて居た。

余はこの厭味のない部屋が初めから好きで、几帳面に片付いた床の間付の座敷よりも、遙に趣味深く感ぜられるのである。いろ〳〵雜談なして二十分許りも經つと、何時ぞやの本誌にあつた「夕日岡閑遊會の記」の筆者なる、永島永洲氏が矢張余と同じ目的を以て見えられた。丁度都合の好い所へ新手が這入り、話頭は直に一轉して湧くが如き興味を覺えるのであつたが、其内不圖誰の口よりともなく巣鴨での面會難の話が出た。すると奥様は「昨日は止むを得ぬ用事で面會に行きました。」と云ふのを冒頭に、所謂「止むを得ぬ用事」の理由を語られた。それは、姓名をあかさぬ一人の紳士が其前々日小有村舍を訪れ、少なからぬ金子を投込み去つた爲、不取敢心あたりを尋ねる必要が生じた譯である。余はゆくりなく此話を耳にして、何とも云へぬ感動に打たれた。世を擧げて醜普、虛僞の渦中に捲込まれつゝある今日に於て、果然眞珠の如き美しき光、これぞ眞の靈の聲、靈の涙、神はまだ全く此世を捨て玉はずと自覺した。

折から一臺の車が門を這入つて庭先へと引こまれた。車を與けるは十二三の若衆で、車上の客は誰あらう、小有村舍の庭の花、今茲二つのまあちやん其人である。物足らぬ部屋には忽ち活氣を添え始めた。眞面目な主客の顏は崩れ始めた。心は何時か無邪氣に化し、吾等は只譯もなくまあちやんのお朋友となつた。人並勝れて大きい目、其眸の動き方、ふつくりと肉の張きつた豐な頬、父様によく似たまあちやんは、圓滿と云ふ文字の具象體と云つても好い。父様は今浮世を餘所の旅にあるも、こゝにはまた此樣な可愛い不用意の慰藉者がある。あゝ外よりは溫き情の光、内にはこのしほらしき花もあり、主のなき村舍にも、禍は終に入る能はず。

料らず長座した余は、到頭午餐の御馳走になつた。無論永島氏も奥様も同じ食卓、互に談じつゝ、顏見合せつゝ箸取る時の快さ。人類最高の理想がこの小さな食卓の上に姿を見せたやうに思つた。

但し其頃にはまあちやんは女中とお隣りへ遊びて行つて不在であつた。

午後一時、余は終に安心して村舍を謝した。註に曰く、小有村舍とは堺氏の寓居を指して云ふのである。渚山記

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯便り

［喜ばしき日］ 諸君よ愈々喜ばしき日が近付いて參りました。今から半月餘りの内に、ふたゝび健康なる堺氏と青天の下に面謁する事が出來て、同時に諸君はあの又お馴染の文章に接する機會が來る譯です。

［新設すべき一欄］ 笹岡みち子と仰せらるゝ方其他二三の人々より疾病衛生の事に關した。お尋ねが參りました。尤も此種の質問はこれ迄隨分請取つたものですが何にせよ専門に渉る事故、つい〳〵答も得せず、其儘にしてあつたのです。就ては此度豫て諸君御承知なるドクトル加藤八山氏を始め、外に婦人科小兒科の技術に長じた某國手にも依賴して、一般有益と認める質問に限り、本誌上で解答の勞を取つて戴く事になりました。向後は定めし是に依て利便を得る方が多いでせう。

［『讀者の顧問』の再興］ これと同時に、本誌第一卷時代にあつた『讀者の顧問』欄をも再興しませう。隨分世の多くの家庭には、種々の紛擾の爲に精神を惱し、自分の力で解釋するには、餘りにその問題が巨大に過ぎるなどの事が決して少なくはありません。本誌は此等の人々に對しては、最も親しい友人となり、最も同情ある相談役となる事を辭さぬ積り。そうして、この事は啻に其御本人一人の利益ばかりでない故、其問と答とはすべて公然本誌に掲げ、一般の讀者諸君の參考にも供する積りです。

［小説「火の柱」］ 小説と申せ、普通の無骨小説とは段が違ふ。此書は實に著者が胸裡に潜伏せし所の理想が、噴火の如くに文字となつて發現したもので、一字一句直に人の靈に迫つて來る。全篇に於ては、種々學ぶべき點が多くあるが、其内でも、かの女主人公梅子の人格こそは、今後の婦人諸君が宜しく採て本尊となすもべき價値ある者と思ふ。柔にして剛、特に一身を賭して節操を汚かさず、戀愛の自由と神聖を保持せんとするの勇氣、當今の社會では到底見る事の出來ない婦人であります。私は切に讀者の一讀を祈る。

［消費組合の話］ 本誌上へ度々筆を執つて下さる石川兄の新著です。『消費組合』と云ふものは、共同の力で强きに衝る最も鋭利な機關で、つまり社會主義的社會實現の初級梯とも申すべし。薄給のものを初め、安い賃銀で其日暮しの憂き目を見ねばならぬ者などには、是非共になくてはならぬ利器なのです。石川兄はこれを最も平易に、丁寧に而も詳細に陳述して、少しも餘す所がありません。これ迄消費組合の事に不案内であつた方々は、是非共この書に就いて新しき智識を得らんたいものです。

［讀者諸君へ注意］ 一月に六ヶ月分御注文になつた方は本號で前金切となります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廣告

生儀多年濱田博士の助手となり東京産科婦人科病院に奉職中の處昨年同院を辭し左記の處に於て開業致し居候間此段謹告す

▲毎日曜日には濱田病院 副院長

醫學士 辻高俊氏

來濱助診せらる

▲入院患者の爲めに病室の設あり

横濱市眞砂町二丁目二十六番地

朝長鷹次郎

轉居

小林助市

麹町區中六番町十番地

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

東洋内科醫院

電話本局八八八番 一三八五番

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷ハ隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室増設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

南湖院

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

東京麹町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

高田病院施診所

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

外科皮膚病

梅毒 痔痳 外科的婦人科尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際 出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時 小田原海岸 毎月曜午前中

故德永規矩遺稿。西　鎭君、中山忠恕君、海老名彈正君、內村鑑三君、植村正久君序、

再版

逆境の恩寵

正價四十錢
郵稅八　錢

○平民新聞評　讀者をして眞に天籟に接するの思あらしむ、子規隨筆、仰臥三年などゝ併稱すべき好文字

○福音新報評　宗敎的の實驗を證するに雄健なる文章と該博なる聖書の智識と深刻なる靈的試練とを以てし著者の精神氣魄は紙上に活躍して一字血あり一句淚あり讀者をして卷を抱いて泣哭せしむ

○新人評　言々句々肺肝より出で加ふるに行文凡ならず、讀過の際同情の淚堰きあへざるものあり

○基督敎世界評　所謂至誠人を動かすもの、其文章は雄勁其思想は健全稱すべきの名句金言尠からず單に文學上より見ても傑作たるを失はない、之を新ヨブ記と稱しても甚しき過賞ではあるまいと思ふ

○新小說評　讀去り讀來れば淚熱く血顫ふべし

○六坂朝日評　先づ其人に對して同情の感起り其文を讀めば却て大に激勵せらる逆境に立てる者の爲に天來の福音

○求道評　宗敎の堂奥に入りたるものに非ずば焉ぞ斯如に中和なる春の園に遊ぶを得んや、これ著者の言なりと雖も實に神の福音なりといふべきか

發兌　東京市京橋區尾張町二丁目　警醒社書店

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り
（電話新橋）八一六番　二八〇八番

飯倉四ッ辻　飯倉支店　電話新橋一五七四番
赤坂表一丁目　赤坂支店　電話新橋二〇六八番
四谷大通り　四谷支店　電話番町五一〇番
牛込神樂坂　神樂坂支店　電話番町六三〇番
本鄉一丁目角　本鄉支店　電話下谷七二番
神田須田町　須田町支店　電話本局二〇七三番
兩國米澤町　米澤町支店　電話浪花二五九〇番
淺草吾妻橋通　吾妻橋支店　電話下谷七三番
南品川一丁目　品川支店　電話新橋一一三九番
橫濱吉田町　橫濱支店　電話橫濱一三〇四番
日本橋坂本町　代理店　田中銀行　電話浪花二四〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美術

漆器

蒔繪

御鏡臺道具　せんかん　家具　其他　もちゃく　杯　製造

めづらかの陳列場設置有之候間御隨意に御縱覽多少ニ不拘御用向被仰付候樣偏ニ奉希上候敬白

東京市日本橋區室町貳丁目

木屋本店

林九兵衛

電話本局（九百九十七番 千七百十番）
電信略名（キ九）

家庭雜誌

合本第壹卷

一冊　金五拾錢

郵税金八錢

合本も追々に廣く需用がありまして、今日ではもう殘部三十ばかりになりました。御入用の方は此際至急に申込んで下さい。本誌の讀者に限り一割引にて差上ます

發行所　東京麴町區中六番町十番地

由分社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手紙雜誌

定價 毎月一回廿日發行
- 壹部金拾五錢
- 六前部金八十五錢
- 十二前部金壹圓六拾五錢

（凡て無郵税）郵劵代用一割増

手紙の手本となり、家庭の讀み物となる、修養談あり、紀行文あり、戰況あり、閑事實用古今東西諸名士の手紙毎號六七十通を收む、試に軍國中の太平雜誌である
初號より最近三號迄の諸大家のお名前丈をお知らせ致します

第壹號　三月二十日既刊

藤田東湖（寫眞版）●ワシントン●竹越與三郎●藤原惺窩●伊東銀月●露國、トランスパール、米國、此の頃流行の繪葉書（寫眞版）●豐臣秀吉●寺恒敷島艦長●源賴朝（肖像入）●紅葉山人●とき女●西園寺公望●重田文學士●梶田半古（木版入）●横井時雄（寫眞版）●南摩龍夫（木版入）●島田三郎（木版入）●中島湘煙女史●渡邊國武（寫眞版）●澁澤榮一●佐々木信綱●はせを●佐々木弘綱（寫眞版）●正岡子規●野口寧齋●木村重成妻●有馬中佐●同夫人●三浦容夫（寫眞版）●饗庭篁村●松居松葉●依田百川●吉川晉水●園田孝吉●川上音次郎（寫眞版）●中江篤介（寫眞版）●小山久之助（寫眞版）●田中正造（寫眞版）●金子薫園●露英●遲塚麗水●幸田露伴

第貳號　四月二十日既刊

西郷隆盛（寫眞版）●大倉喜八郎（木版入）●野口米次郎●武田信玄●釋宗演（寫眞版）●丁汝昌●伊東祐亨●藤澤淺次郎●千利休●内藤鳴雪（寫眞版）●大町桂月（寫眞版）●内海月杖（寫眞版）●田岡嶺雲（寫眞版）●ビスマーク●後藤新平（木版入）●森鷗外（寫眞版）●北企理學士●東久世通禧●大石良雄（木版入）●寶井其角●新井白石●井上正鐵●吉田松蔭●抱一上人（寫眞版）●竹内棲鳳●大槻如電●都築馨六●探菊散人●落合直文（寫眞版）●松本正年●邑井貞吉●バイロン●正岡子規（木版入）●大洲鐵然●與謝野鐵幹（寫眞版）●尾上柴丹（寫眞版）●服部躬治（寫眞版）●大口鯛二（寫眞版）●久保猪之吉（寫眞版）●金子薫園（寫眞版）●佐々木信綱（寫眞版）

第三號　五月廿日既刊
名媛書翰

平政子（寫眞版）●下田歌子（寫眞版）●阿佛尼●澁澤琴子（寫眞版入）●槇村良子●紫式部●與謝野晶子（木版入）●宇良田唯子（寫眞版）●塚原雄子（寫眞版）●小少將●野村望東尼（寫眞版）●中島歌子（木版）●岡都子●荒井桐月女史●白岩艶子●橘糸重子●小松崎古登子（木版入）●國分みさ子●大塚楠緒子●飯田俊子●江木榮子●メーテル女史（寫眞版）●リチャードソン夫人（寫眞版）●西舛子（木版入）●佐々木雪子●秘[illegible]（[illegible]）●孰子（木版入）●蓮月（寫眞版）●大武三位●赤染衛門●マクレオド女史●小川直子●鵜殿よの子●加藤[illegible]人●松平中尉夫人（寫眞版）●マツギー夫人●長崎省吾夫人●鷹司公爵令嬢（木版）●矢島揖子（寫眞版）●[illegible]（寫眞版）●淺田正文夫人（寫眞版）●植村正久夫人（寫眞版）●野口小蘋（寫眞版）尾上柴舟夫人[illegible]男爵夫人（木版入）

三號には繪葉會交換會の社告あり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社取次書籍目録

本社に於て取次販賣を爲す書籍は、本誌の讀者諸君に限り、特に**定價の一二割引**にて御求に應ずる事と致します。但し郵券代用にて御送金は御斷致す

▲家庭の新風味（堺枯川著）　全六冊合本、定價壹圓、郵税八錢。

▲第一册、家庭の組織（結婚論、夫婦論、家族論。附錄、春風村舍の記）▲第二册、家庭の事務（秘書官として、大藏大臣として、內務大臣として。附錄、由分子禁烟の歷史）▲第三册、家庭の文學（新聞雜誌、書籍、日記、手紙、和歌、俳諧）▲第四册、家庭の親愛（夫婦の間、親子の間、家族の間。附錄、毛皮裏の外套、愛犬黑）▲第五册、家庭の和樂（食卓、來客、書會、散步及出遊、遊戲、小供及老人、家畜及庭園。附錄、當世紳士、藤室牧師の家庭）▲第六册、家庭の教育（妻の教育、家族の教育、子の教育。附錄、極樂寺谷の晝飯、顏を美しくする法、補遺）

▲家庭夜話（堺枯川編輯）　全三册合本、定價壹圓、郵税拾錢。各册參拾五錢、郵税四錢。

▲第一册、子孫繁昌の話（堺枯川譯述、原作は佛國最近の小說大家ゾラの理想を發揮したるフルートフルネス）▲第二册、質素節儉の話（加渡眠柳譯述、原作は有名なる英國の文人ゴールドスミスの第一の傑作たるヴイカ、オブ、ヱーキフイルド）▲第三册、仁慈博愛の話（志津野又郎譯述、原作は米國スート夫人が無限の同情を注ぎたる奴隷談、アンクル、トムス、ケビン）

▲我家の犬猫（動物虐待防止會叢書第一編）　定價八錢、郵税貳錢。（此書に限り郵券九錢にて御注文に應ず）

▲火の柱（木下尙江著）　定價三十五錢　郵税六錢

▲消費組合の話（石川旭山著）　定價十二錢　郵税二錢

▲地上の理想國瑞西（安部磯雄著）　定價十五錢　郵税二錢

平民文庫出版廣告

消費組合の話

石川旭山著

▲此頃社會の諸方面に勃興しつゝある消費組合（一名購買組合）につき、其歷史、其理論、其組織、其實例などを平易通俗に說明記述せり、必ず世の需要に應ずる者あるを信ず（定價拾貳錢　郵税貳錢）

地上の理想國 瑞西

安部磯雄著

▲日露戰爭正に酣なるの時、平和と幸福とを世界に宣傳すべき天職を帶びたる此中立國の國情が温厚の紳士に依りて世に紹介せらるゝは吾人の深く愉快とする所也（定價拾五錢　郵税貳錢）

發行所　東京麹町區有樂町三丁目　**平民社**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

平民新聞

毎週日曜發行　▲一部三錢五厘　二十部六十五錢　五十部一圓六十錢、申込前金の事、無郵稅

本紙編輯は安部磯雄、西川光二郎、木下尚江、堺利彦、幸徳傳次郎等之に當る

二十世紀の大勢力たる社會主義の思潮に接し非戰論の福音を聽かんと欲する者は來れ、本紙は日本社會黨唯一の機關新聞なり目下連載せる秋水譯露國革命奇談は益々佳境に入る

小説
火の柱

◎木下尚江新著

▲定價金三十五錢　▲郵稅金六錢
五月十日發行

戰爭の表皮一枚下には革新の情熱炎々たり曰く戀愛の自由曰く勞働の神聖曰く靈肉合致の新宗教今や活機一轉の津頭に苦悶彷徨する男女の青年何ぞ速に此新文學を繙かざる是れ著者が卿等に代りて熱血を吐ける新運動の宣言なり

發行所　東京市麴町區有樂町三丁目壹番地　平民社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA